

## 今月の PICK UP

『世界のティータイムの歴史』 ヘレン・サベリ／著 村山 美雪／訳 原書房 383.8円

日本ではフレーバーティーのブームや無糖の紅茶が好まれるようになって、2019年から急激に紅茶市場が広がりました。今やヌン活という言葉ができるほど、たくさんの種類の茶葉やそのお茶に合ったお菓子が好まれるようになってきています。

著者は英国人のフードライターで、食物史に精通しています。本書はティータイムの歴史が地域ごとに分けてあり、茶葉の種類だけでなく、お茶会の洋服、お菓子、茶器などお茶を取り巻く文化も紹介しています。図版や写真が豊富に掲載されていて美しく、眺めていても楽しい本です。年末の慌ただしいこの時期にこそ、この本で世界のティータイムを楽しんでください。



『18世紀のドレスメイキング 手縫いで作る貴婦人の衣装』

ローレン・ストーウェル、アビー・コックス／著 新田 享子／訳  
ホビージャパン 593.3円

18世紀ヨーロッパを代表するドレス4点の作り方を、流行の変遷に沿って紹介する1冊。それぞれのドレスを当時と同じく全て手縫いで作る方法、作り上げたドレスの着こなし方、トータルコーディネートのための小物の作り方まで、オールカラーの写真とともに詳しく解説されています。

圧巻なのは、1760~70年代に流行したサック・ガウン。これでもか! とばかりに寄せられたフリルに、見ているだけでもため息がもれます。



## 司書の おすすめ



『お椀ひとつで一汁一菜 雑煮365日』 松本 栄文／著 NHK 出版 596.2円

お椀ひとつにお餅、汁、具の組み合わせ次第で無限大のバリエーションに富む雑煮。本書では、春夏秋冬ごとのおすすめ写真付きレシピ55点と日本の四季を盛り込んだ365日の雑煮暦が紹介されています。

また、「そもそも、雑煮とは?」のコラムには、雑煮の原点や京都の雑煮に芋が入るわけなど面白く書かれています。お正月の祝い膳として一味違った雑煮をお楽しみください。



『風が強く吹いている』 三浦 しをん／著 新潮社 913.6円

お正月の前にこんな小説はいかがでしょうか?

寛政大学4年のハイジは天才ランナー・カケルと出会い、共に箱根駅伝を目指そうと一方的に宣言します。しかし、駅伝メンバーの大半は陸上の素人で、カケルは箱根なんて夢物語だと思っていました。それでも一緒に練習に励むうちに、個性豊かな面々と時に衝突しながらも絆を育んでいき、皆は本気で箱根駅伝出場に挑むようになります。この本を読めば、箱根駅伝が楽しみになること間違いなしです。



『マンガでわかる楽しい草取り』 西尾 剛／著 坂木 浩子／イラスト

誠文堂新光社 615.6円

庭や畑を雑草なしにきれいに保つのは、大変でつらく感じてしまいませんか。この本では「草取りは楽しいもの」になるためのアイデアが多数紹介されています。たとえば、雑草の特性、草取り道具の選び方、生えている場所ごとの草取りの方法など。知って実践することで雑草と適度な距離で楽に付き合っていけそうです。

